



発表会

子どもの成長を確認しました。

今年はコロナによる制限が解除されて、観客の主役はおじいちゃん、おばあちゃんでした。孫の晴れ舞台を見に、わざわざ遠方からやってきたおばあちゃんがいて、成長した姿に、ずっと涙を流していました。舞台上上がる子どもたちはド緊張状態、固まってしまった子もいましたが、それもいい経験です。立っているだけでかわいい、それが動いて、セリフを言うのですから、親や祖父母には、たまりません。先生方もホッとしています。

俳優さんは、テレビより映画、映画より舞台だといいます。テレビや映画は、何度もやり直しがききますが、舞台は一発勝負です。観客の反応がダイレクトに伝わります。ですから、どんなにベテランの役者も緊張するそうです。その分、演じた後に浴びる拍手が何とも言えないそうです。また、舞台は、音楽、衣装、照明、大道具などの美術を含めた総合芸術です。そうした華やかな世界に憧れる人が多いのもわかります。発表会を通じて、子どもたちは、また大きく成長しました。うちの園からも舞台俳優が生まれるかもしれません。



その叱り方は良い、悪い？ ダメなものはダメ 1mmも譲歩しない

「みっともないから止めなさい。」「みんなに笑われますよ」

日本人は、こういうしかり方をよくします。いずれも世間の目を気にします。しかし、このしかり方には重大な落とし穴があります。人のいないところなら何をしてもいいのか？ということになりかねないからです。



人がいようがいまいが、“ダメなものはダメ、悪いことは悪いこと”としっかりけじめをつけるのが「叱る」ということです。（「叱る」と「怒る」は違います。）

また「お父さんに言ったらなんと言うかしら」という言い方をよく母親はしがちですが、これは母親としての責任逃れです。父親の権威に頼って叱っているだけです。「お父さんがダメと言ったらダメで、お父さんがいいと言ったら（私も）いいよ」つまり、子どもに嫌われたくないという母親のエゴイズムの現れです。

叱るときは真剣勝負です。「自分はいいいんだけど」という曖昧さを残していたら、子どもはその辺の空気を読むのが上手ですから、「ハハーン、お父さんに分からないようにやればいいんだ」と思ってしまう。

「叱る」というのは、“ダメなものはダメ、悪いことは悪い”、そのことを1ミリの譲歩もないということ子どもを脳裏にすり込むことです。

SNS上のトラブルが横行しています。「違法じゃないから」と言い逃れをする人がいます。時代の流れに法律が追いついていないのが現状ですが、その前に、道徳心や倫理観からダメなものはダメという意識がないと、世の中よくなりません。

11月27日(月)から12月2日(土)までの予定

- 27日(月) リズム遊び 図書の日(1歳児)
- 28日(火) **お弁当の日** リズム遊び
- 29日(水) 「わくわくサロン」10時から11時 オープンキダーガーデン
入園準備のための地域子育て支援事業です。
こども園は、英語圏ではkindergarten(キンダーガーデン)と呼ぶそうです。
- 30日(木) 誕生会
- 1日(金) **もちつき会** 身体測定(0~2歳児) 訓高職業体験報告会
バス乗車指導は、12月11日に変更になりました。



* 12月1日(金) もちつき会は、商工会青年部と育友会レク部の協力を得て3年ぶりに復活します。